

AEON ec8-17ランプリ



オンライン上でプレゼンテーションを行ったエコワングランプリの審査会

イオン系列
公益財団
環境保全コンテスト

大曲農高が総理大臣賞

高校生による環境保全活動のコンテスト「イオンエコワングランプリ」の普及・啓発部門で、大曲農業高校（大曲市）による仙北市・玉川温泉の湯の花を使ったカラスよけキット開発の取り組みが、内閣総理大臣賞を受賞した。

エコワングランプリはイオングループの主要企業などでつくる公益財団法人が、2017年から行っている。誰でも取り組める普及性の高い「普及・啓発部門」と、地域の問題に着目した「専門性の高い「研究・専門部門」の2部門で、全国の高校から取り組み事例を募集している。今年には普及・啓発部門に61件、研究・専門部門に41件の応募があった。今年4日、書類審査などを通った各部門の上位5校がオンライン上の審査会でプレゼンテーションを行い、受賞者が決まった。大曲農高の取り組みは本年度、2年生4人が学校の課題研究の一環として行ったもの。同校の果樹園ではカラスによる食

「湯の花」でカラスよけ開発

害が頻発しており、地域の農家や住民も同じ悩みを抱えているのではないかと研究を始めた。地域の一部農家がカラスよけに硫黄石を使っていることを知り、より低コストな代替品として玉川温泉の湯の花に着目。山野大樹さんは「昔ある賞をいたたけてうれい」。片野芹菜さんは「地域の課題の解消に向け、研究を続けていきたい」と話した。

（藤田将子）



賞状を持つ山野さん（左）と片野さん

©秋田魁新報社